

令和4年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
生きる力を育むとっとり学校図書館活用教育普及事業	935	1,035	△100				935	
トータルコスト	8,032千円（前年度 8,164千円） [正職員：0.9人]							
主な業務内容	高校生の未来につながる読書推進 学校図書館活用教育普及講座 学校図書館職員研修 その他管理事務							
工程表の政策内容	生涯学習の環境整備と活動支援							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

学校図書館支援センターが設置7年目となり、就学前から高校まで一貫した学校図書館活用教育を目指す「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」を改訂し、これまでに作成した小学校・中学校の年間計画モデルとあわせて県内への普及に努める。また、新学習指導要領とGIGAスクール構想に対応した学校図書館の活用をより一層推進するため、学校図書館関係職員等の能力向上に資する研修を実施する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	内容	予算額
GIGAスクール構想を支える学校図書館活用教育普及事業	GIGAスクール構想の展開を支える学校図書館活用教育を普及・推進するため、ICTを活用した授業実践や活用スキルを学ぶ研修を開催する。学校図書館のDX化に向け、図書館ネットワークを構築し情報共有を行っていく。	349
(新)「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」普及啓発事業	令和4年3月に改訂予定の「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」の理念の普及・啓発を目的とした概要版を作成し、配布する。	308
学校図書館司書研修会	昨今の教育的課題を踏まえた学校図書館の利活用と推進を目指し、県内学校図書館関係者だけでなく、広く教職員への参加を呼び掛ける研修会を年1回開催する。	154
学校図書館司書実務研修会	県内高等学校司書、特別支援学校司書を対象に、学校図書館の運営や学校司書の年間業務について先輩司書主任から学ぶ年2回の研修会を実施する。	40
鳥取県高校生ビブリオバトル大会	全国高等学校ビブリオバトル大会の県予選として、代表者1名を選考する大会を開催する。	51
学校図書館支援員派遣・訪問事業	市町村立図書館、教育委員会、県立学校等の要望に応じて、県立図書館職員が各自治体や学校へ出向いて研修の講師を務める。	33
合計		935

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

教育課程に寄与する学校図書館を目標に、就学前から高校まで一貫した学校図書館活用教育を目指す「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」（改訂版）や新学習指導要領における学校図書館の役割の普及啓発を行う。

<取組状況>

- 学校図書館活用教育普及講座（東中西部3会場）（令和3年度）総参加者 108名
- 学校司書実務研修会（令和3年度）参加者 23名

<改善点>

学校図書館関係者だけでなく、広く教職員の参加を呼び掛けていく。

令和4年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
デジタル化時代の知の拠点づくり事業	24,878	24,872	6	24,878				
トータルコスト	30,398千円（前年度 30,417千円） [正職員：0.7人]							
主な業務内容	資料のデジタル化の推進、デジタルアーカイブのためのデジタルアーカイブシステムおよび資料デジタル化の効果の広報、スキルアップ研修講座受講、デジタルアーカイブシステムの運用・保守							
工程表の政策内容	生涯学習の環境整備と活動支援							

事業内容の説明 【「デジタル田園都市国家構想推進交付金」充当事業】
【「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」充当事業】

1 事業の目的、概要

利用者の資料利用の利便性を向上させ、地域独自の歴史や文化に関する資料を容易に利用できる環境を整え、次世代に伝え残していくため、図書館の貴重な資料を電子化し広く公開する。そのための手法として、博物館、公文書館、埋蔵文化財センターと共同で構築したシステムの利用促進を図る。
また、大学図書館や市町村、個人が所蔵する資料の登録、公開についての検討を行う。

2 主な事業内容

(単位：千円)

区分	内容	予算額
資料のデジタル化の推進	所蔵している郷土資料のデジタル化	2,210
「とっとりデジタルコレクション」および資料デジタル化の効果の広報	県立博物館、県立公文書館、県立埋蔵文化財センター、県立図書館の4館協働でイベントを開催	151
スキルアップのための研修講座の受講	デジタルアーキビスト、文書情報管理士等の資格取得に係る研修受講経費等	329
「とっとりデジタルコレクション」の運用・保守	「とっとりデジタルコレクション」の賃貸借経費等	22,188
合計		24,878

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

地域の歴史や文化に関する資料を容易に利用できる環境を整え次世代に伝え残していくため、図書館の貴重な資料のデジタル化を推進し、利用促進を図る。

<取組状況・改善点>

- 平成15年度～17年度：絵図のデジタル化
利用希望の多かった38種、89点の絵図を対象に所蔵絵図のデジタル化に取り組み、絵図の画像をホームページで公開。
- 平成29年度：「総合的なデジタル化計画」の策定、LAN環境の整備、デジタル化計画の定着に進行管理できる職員育成のための研修派遣を実施した。
- 平成30年度～令和元年度：デジタル化予定資料の中から優先順位を考慮し、書画等のデジタル化を実施。
- 令和2年度：「とっとりデジタルコレクション」の構築・公開を行った。
- 令和3年度：活用講座の開催・ジャパンサーチや国立国会図書館サーチとのデータ連携を実施。

令和4年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
仕事とくらしに役立つ図書館推進事業	8,195	7,737	458				8,195	
トータルコスト	30,276千円（前年度 30,708千円） [正職員：2.8人]							
主な業務内容	高齢者・医療健康情報・法律情報等のサービス事業 大学等との各種事業、子育て支援、地域振興等新規事業開拓、図書館活用普及推進活動促進他対外連絡調整、ビジネス支援事業、県内産業支援イベントでの出前図書館							
工程表の政策内容	生涯学習の環境整備と活動支援							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

地域の情報拠点として、県民の情報要求に応え、仕事とくらしに関わる県民と地域の課題解決に向け必要な情報を提供するなど、一層の資料充実や機能向上を図る。

○地域経済の活性化と地域の自立への貢献

県内産業を支援する情報提供機能を強化し、仕事に役立つサービスを提供するとともに、地域づくりに取り組む団体等と連携しながら地域活性化に貢献する。

○豊かなくらしへの貢献

ライフステージの様々な場面で必要な資料を収集し、不安や悩みを安心に変える知識と情報を提供する。

○ユニバーサルデザインの視点に立ったサービスの推進

デジタルアーカイブの特性である利用しやすさを活かしつつ、障がい者や高齢者等図書館の利用に困難のある方や情報の獲得に困難のある方に対するサービスを一層充実する。

※デジタルアーカイブシステムとは、デジタル化資料を保存・公開する仕組みのこと。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	内容	予算額
(新) ホンとに使える～ライブラリーすごろく～	それぞれのライフステージで、子どもたちが図書館の資料や機能、サービスを理解することにより、将来にわたり自ら考え行動する生きる力の育成を目指す「すごろく」を作成し、ふるさとキャリア教育を推進する。	378
図書館利用に障がいのある人・高齢者に配慮した図書館サービスの充実	視覚障がい者等に対するサービス提供のための環境整備を推進する。ライトハウス点字図書館等関係機関との協力体制を整備するとともに、障がい者サービスの拡充を図り、読書バリアフリーの啓発に努める。高齢者への図書館サービスとして県立図書館や市町村立図書館で実施している音読教室の一層の普及を図る。	1,363
くらしに役立つ医療・健康情報サービス普及・啓発事業	コロナ禍の中、正しい情報を選択し使いこなすことの重要性について普及啓発するため、感染症専門家による講演会を開催し、正しい医学・健康情報のもとに人権を尊重した暮らしやすい地域づくりを目指す。	273
地域を元気にするビジネス支援事業	セミナーや他団体主催の研修会等の機会を活用して、幅広い層に公共図書館のビジネス支援機能の浸透を図る。コロナ禍における県内の厳しい経済状況を踏まえ、専門資料や調査機能を活用した県内全域でのビジネス支援サービスの定着や利用者の掘り起こしに取り組む。	731
図書館で「すくすく子育て」応援事業	だれにもやさしい子育ての環境づくりを応援するために、関係部局と連携し、託児サービスの実施と普及や「読みメン」の普及を図る。	576
商用データベースの提供	利用者の高度化する情報要求に応えるため、商用データベースを導入し、県内の図書館員に対しても指導助言ができるよう職員の情報検索スキルの向上を図る。	3,838
スキルアップのための専門分野研修受講	文部科学省、国立国会図書館、日本図書館協会、その他各種団体の開催する研修へ積極的に参加し、図書館職員としての資質向上を目指す。	1,036
合計		8,195

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

県民に役立つ地域に貢献する図書館を目指し、仕事とくらしに役立つ図書館、人の成長・学びを支える図書館、鳥取県の文化を育み世界に発信する図書館、知の拠点としての図書館としての機能を充実する。

<取組状況・改善点>

○新型コロナウイルスによる業界動向や市場動向の把握に役立つ専門書等の配架、ビジネス情報が検索できる様々な商用データベースの整備を行い、ビジネスを支援した。

○「読書バリアフリーフォーラム」、「闘病記文庫開設15周年記念フォーラム」などを開催した。

○ケーブルテレビを利用して音読教室の普及を図った。

令和4年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
人の成長・学びを支える図書館推進事業	614	512	102				614	
トータルコスト	15,597千円（前年度 15,562千円）〔正職員：1.9人〕							
主な業務内容	子どもと本をつなぐ講座、児童図書サービス検討その他管理事務、市町村図書館児童図書部門訪問相談・電話相談・実務担当者会、図書館を居場所にキャンペーン・街中ワークショップ、サポートの必要な家庭の現在を知るための講座・ボランティア機会の提供							
工程表の政策内容	生涯学習の環境整備と活動支援							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

- 県民がいつでも・どこでも地域資料にアクセスできる環境を目的とした、地方出版物のデジタル化の検討を行う。
- 本の魅力を紹介する活動を支援し、読書意欲の向上を図る。
- 経済的に困窮する家庭やひとり親家庭等（以下「サポートの必要な家庭」という）で育つ子どもたちに、図書館が居場所であることを周知する。
- 子どもの読書推進を図るため、子どもたちに日常接する職員（公共図書館職員、学校関係職員、幼稚園教諭、保育士等）の養成や、市町村立図書館児童図書部門の支援を行う。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	内容	予算額
（新）地方出版物のデジタル化推進検討協議会等	地方出版物のデジタル化について協議会を開催し、地域資料の保存・蓄積・公開を進めるための検討を行う。また、本の予告編動画制作を支援することにより、読書意欲の向上を図る。	217
サポートの必要な家庭応援・居場所としての図書館活用推進	支援機関や県内市町村立図書館との連携を進め、図書館の取組をサポートの必要な人に届けるため、講演会や意見交換会を開催する。	171
子どもと本をつなぐ講座	子どもの読書推進を図るため、主に小学生の読書推進について、必要なテーマで研修を年1回実施する。	182
児童サービス実務研修講座	ストーリーテリング※や絵本の読み聞かせ等の子どもと本をつなぐ手法及び児童サービスの基礎について学ぶ講座を開催する。	44
合計		614

※ストーリーテリング…昔話や短いお話を覚えて語ること

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

- 県民に生涯学習や学び直しの機会を提供し、豊かな人生を送るための一助とする。
- サポートの必要な家庭で育つ子どもたちに、図書館が居場所であることを周知する。
- 子どもたちに日常接する職員（公共図書館職員、学校関係職員、幼稚園教諭、保育士等）のスキルアップを目的とした研修を行い、子どもたちの読書意欲向上を図る。
- 令和3年3月に構築した「とっとりデジタルコレクション」を活用し、地方出版を世界に発信する手法について検討を行う。

<取組状況>

- 平成29年度から「サポートの必要な家庭」応援事業を立ち上げ、取組を開始した。市町村立図書館や支援機関等に加え、学校図書館との連携も進み、図書館が「居場所」になれるという考えが図書館員や支援者に浸透しつつある。令和3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、図書館を居場所とする活動や取組が推進できなかったが、長期的な観点から必要な取組であると考えている。
- 平成30年度から開催している「子どもと本をつなぐ講座」や市町村立図書館実務担当者会（平成30年度からは隔年開催）の実施により、市町村立図書館職員、学校関係職員及び幼児教育関係者の資質向上と子ども読書支援者の連携に繋がっている。

<改善点>

地方出版物のデジタル化に向けて検討を始めていく必要がある。

令和4年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
郷土情報発信事業	2,726	3,321	△595			<財産収入> 60	2,666	
トータルコスト	27,651千円（前年度 29,124千円）【正職員：2.8人、会計年度任用職員：1人】							
主な業務内容	ふるさとの歴史再発見事業（資料展、郷土文化講演会等）、小冊子「郷土文学者シリーズ」の広報 地域資料データベース等サービス事業、資料調査、研究・収集等、郷土資料室でのサービス提供、その他管理事務							
工程表の政策内容	生涯学習の環境整備と活動支援							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

- 郷土資料（地域資料）を収集・保存するとともに、資料の利用促進を図る。紙媒体の収集に加え、郷土関係資料のデータベース化を推進し、後世に郷土資料を継承するための保存・活用を進める。
- 鳥取県出身の文学者及び鳥取県の自然や文化について興味、関心を喚起する資料展や講演会を開催する。県内の関係機関や市町村立図書館、学校図書館と連携し、広く県民へ情報を発信する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	内容	予算額
ふるさとの歴史再発見事業	資料展及び郷土文化講演会を開催する。 鳥取県の昔話を聞く会を開催する。	1,396
郷土文学者情報発信事業	鳥取県を舞台とした作品や郷土出身文学者の作品に触れる「鳥取文学講座」を開催する。	148
「文字・活字文化の日」記念事業	「文字・活字文化の日」を記念し、地方出版文化功労賞受賞者による講演会を開催する。	73
地域資料データベース等サービス事業	日本海新聞の記事索引サービス、マイクロフィルム閲覧サービスを提供する。	1,109
合計		2,726

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

- 郷土資料（地域資料）を収集・保存するとともに、資料の利用促進を図りながら、後世に郷土資料を継承するための保存・活用を進める。
- 鳥取県出身の文学者及び鳥取県の自然や文化について興味、関心を喚起する資料展や講演会を開催し、広く県民へ情報を発信する。

<取組状況>

- 資料展では、鳥取初や鳥取で始まったことなどに関する内容で行った。鳥取の魅力を発信し、夏休みの子どもたちの調べ学習の参考にもなった。
- 鳥取県を発信する企画展示など、社会的な課題を捉えて実施した。鳥取大学など公的機関、県民活動による団体との連携により、地域に関わる歴史、文化事象を発信した。
- 現在30テーマある調べ方案内「郷土学習ガイド」は内容修正を行い、最新情報を加え公開した。学校や図書館ほか、小学生の夏休みの自由研究、当館主催の鳥取県ジュニア司書養成講座等で利用されている。

<改善点>

- 外部・各種団体等との協力体制を構築する。
- 参加者主体となる、参加しやすい講座形式による企画を立案する。

令和4年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
市町村図書館等協力支援事業	9,026	9,026	0				9,026	
トータルコスト	34,429千円（前年度 34,493千円）〔正職員：2.5人、会計年度任用職員：2人〕							
主な業務内容	協力図書館の貸出・配送、リクエスト図書館の配送、市町村・高等学校・特別支援学校図書館等巡回相談 図書館職員研修 その他管理事務							
工程表の政策内容	生涯学習の環境整備と活動支援							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

- 県民の情報保障のため、全県の図書館や関係機関に対して迅速に資料・情報の支援を行う等、県内図書館ネットワークの要としての機能を果たす。
- 地域の課題やニーズに対応するために図書館職員の研修を実施し、全県の図書館サービス向上を図る。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	内容	予算額
図書館業務専門講座	社会の急激な変化に対応して多様化・高度化している県民の図書館に対するニーズに応じていくため、市町村立図書館職員の資質向上を目的とした研修を年4回実施する。	626
県内図書館の課題解決に向けた支援	県立図書館職員が市町村立図書館を訪問し、個別相談・要望等、意見・情報交換を行い、業務改善を図る。また、県立図書館職員が講師として市町村立図書館等に出向き、希望するテーマに沿った研修を実施する。	284
県立図書館資料等の配送・回収事業	県内の図書館、病院図書室、試験研究機関等、資料を必要とする県民・機関へ迅速な配送を実施する。	8,116
合計		9,026

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

- 市町村立図書館の利用促進と技術向上を図る。
日頃から県内の市町村立図書館の動向や現状を把握し、図書館間で最新情報を共有する。職員の技術向上のための研修の機会を提供する。
- 県民への迅速な資料提供
県内どこからでも必要な資料が迅速に利用できるよう搬送システムを継続する。

<取組状況・改善点>

- 社会情勢の変化や県内図書館職員のニーズに応じて、年4回講座を実施している。市町村立図書館の職員の情報交換の場にもなっている。
- 市町村立図書館、高等学校・特別支援学校図書館、大学図書館、県立病院図書室・試験研究機関・協力機関へ年間2回以上訪問することを目標に実施している。
研修講師の派遣については、レファレンスの研修等、各館の要望にあわせて実施している。市町村立図書館の職員と講義を分担するなど、市町村立図書館と協力し実施していく。
- 県内各館からのリクエスト本を2日以内に届ける宅配システムと、隔週で巡回し、大量の資料や展示物の配送及び回収を行う搬送システムを運用している。

<改善点>

- 図書館業務専門講座で得た知識や情報が各館の業務にどのように生かされているか、訪問相談等の機会を通じて各館の状況を把握することに努める。
- 県立図書館職員が講師を務める研修については、市町村立図書館が研修の企画立案の参考となるよう当館より研修テーマの提案も行う。
また、講義の内容によっては、主催市町村の職員にも講義を担当してもらう等市町村立図書館の職員のスキルアップの機会としても活用する。

令和4年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
図書館国際交流事業	4,912	5,865	△953				4,912	
トータルコスト	16,909千円（前年度 17,866千円）〔正職員：0.8人、会計年度任用職員：2人〕							
主な業務内容	韓国・中国・ロシアの図書館との交流（図書交換等）、国際交流ライブラリー講演会等開催、運営企画その他管理事務							
工程表の政策内容	生涯学習の環境整備と活動支援							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

鳥取県が進めている環日本海諸国との交流や、さらなるグローバル化に伴う幅広い国際交流や国際理解の促進を支援するために、環日本海交流室・国際交流ライブラリーの機能を生かし、広く海外情報を収集・提供することに努める。
また、英語教育や国際理解教育の推進等、世界で活躍する人材育成につながる情報収集・提供に努める。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	内容	予算額
図書交換事業	図書交換等に関する協定を結んでいる韓国・中国・ロシアの図書館と資料、情報の交換を行い、交流を深める（韓国・中国・ロシアへ各60冊送付）。また、新たにモンゴル中央県立図書館との交流を開始する。	1,132
海外に関する資料収集整備・提供の促進	特色ある資料収集等に努め、資料提供の向上、充実を図る。また、所蔵資料の目的別、言語別リスト化を進め、ホームページで公開していく。また、小学校の英語教育必修化に伴う多読資料を整備する。	3,351
海外に関する情報発信	県民に広く海外諸国に関する情報を発信・提供することにより、海外諸国に親しんでもらうとともに、資料の活用促進を図る。また、講演会を開催し、県民の国際交流の理解に寄与する。	343
語学・歴史・文化等学習支援事業	県民の海外諸国（地域）との交流や異文化理解を支援し、翻訳絵本、英語多読等の資料活用を推進する。また、県内在住の外国人が他の外国人や日本人と相互に交流できるよう普及啓発する。	86
環日本海交流室担当職員の配置	環日本海交流室室長を配置する。	—
合計		4,912

※会計年度任用職員の人件費は、教育人材開発課の職員人件費に計上。

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

- 図書館機能の充実
- 環日本海諸国との交流推進と異文化理解への支援
- 世界で活躍する人材育成に繋がる資料等の収集や提供に努める

<取組状況・改善点>

- 平成7年4月：環日本海交流室開室（連続講座開始）
- 平成7年7月：ロシア沿海地方国立ゴーリキー図書館、沿海地方政府児童図書館と図書交換に係る協定締結
- 平成8年6月：中国河北省図書館と図書交換に関する協定締結
- 平成9年6月：韓国江原道春川市立図書館と図書交換に関する協定締結
- 平成11年：県内の図書館への貸出開始（その後、学校・大学等へも貸出開始）
- 平成15年：河北省図書館職員（4名）が鳥取県立図書館を視察訪問、協定（修正）締結
- 平成16年：韓国図書館訪問と図書館間交流（4名）
- 平成26年8月：「国際交流ライブラリー」開設
- 平成27年8月：環日本海交流室開室20周年。国際交流ライブラリー開設1周年記念シンポジウム開催
- 平成28年8月：ロシア沿海地方との友好交流25周年記念事業として国立図書館、政府児童図書館を訪問
- 平成29年10月：鳥取県立図書館職員（4名）が河北省図書館を視察訪問、協定修正の協議
- 令和3年7月：多文化を知るイベント『世界は広いぞ！知ろう！世界のあれこれ』と題して、子どもも大人も日本人も外国人も一緒に、いろいろな国の「あいさつ」「文字」「ことば」に触れるイベントを開催
- 令和3年12月：モンゴルのD. ナツァグドルジ記念公共図書館と図書交換に関する協定を締結

令和4年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
図書館運営費	218,011	194,450	23,561		<1,500> 3,000	<諸収入370 繰入金5,028> 5,398	209,613	県費負担 211,113
トータルコスト	347,392千円（前年度 324,159千円） [正職員：12.8人、会計年度任用職員：10人]							
主な業務内容	館内でのサービス提供 施設・設備維持管理 資料購入、整備 その他管理事務							
工程表の政策内容	生涯学習の環境整備と活動支援							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

- 県立図書館の管理運営、資料整備を行う。
- 外部委員から図書館運営について意見をもらう図書館協議会を開催する。

2 主な事業内容

(単位：千円)

区分	内容	予算額
図書館管理運営費	図書館協議会の開催 図書館業務の管理運営等 図書館システムの管理運営等 施設設備の維持管理等	114,645
資料購入整理費	図書館資料整備 逐次刊行物資料整備 資料整理経費等	99,598
空調設備更新	空調設備の更新に係る設計業務	3,768
合計		218,011

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

多様化、高度化する県民の要望に的確に対応するため、あらゆる分野の最新資料、専門的な資料、郷土資料、市町村や学校を支援する資料等、図書資料の充実を図る。

<取組状況>

- 認知症や引きこもりに関する資料を充実させ、関係者や関心のある県民に多く利用されている。
- 図書館がビジネス支援をはじめ、課題解決のための相談の場として活用されている。

<改善点>

- 図書館利用が県民の課題解決につながった好事例を、展示・漫画の配布により周知に努めていく。
 - 多様化、高度化する県民の要求に応えるために、専門家の助言を参考にしながら、最新の資料を幅広く収集する必要がある。
- また、郷土資料は、出版情報に目配りし、網羅的に収集に努める必要がある。

(注) 起債欄の< >書きは交付税措置額を除いた額である。
県費負担額は、起債欄の< >書きの金額に一般財源の金額を加算した額である。